

研究会「長期予報と大気大循環」のご案内

「長期予報研究連絡会」では下記の予定で研究会「長期予報と大気大循環」を開催します。

今年のテーマは「多様な ENSO と多様な影響～エルニーニョ現象の日本の天候への影響と予測可能性～」です。2014年夏に発生したエルニーニョ現象は2015年7月現在も継続しており、2015/2016年冬にかけて続く可能性が高いことが予測されています（2015年8月10日気象庁発表エルニーニョ監視速報）。2014年の世界の年平均気温は、1891年以降で最も高い値となり、今年も高い状態が続いています。この要因として、地球温暖化に加え、エルニーニョ現象がもたらす大気への影響も考えられます。このような状況の下、今回のエルニーニョ現象が日本や世界の天候へ与える影響は、これまでの統計的關係のみでは説明が困難になってきています。また、太平洋十年規模変動と ENSO の関係やエルニーニョもどきといった ENSO の多様性について近年盛んに議論されており、その予測可能性や日本の天候に与える影響などについて研究が進んでいます。

本年の研究会では、2014年から続くエルニーニョ現象の経過と予測について振り返るとともに、多様な ENSO が日本の天候に及ぼす影響のメカニズムに注目して議論することになります。それ以外の ENSO に

関連する幅広い話題提供をしてくださる方もお待ちしております。

講演の申し込み締め切りは2015年10月30日（金）です。講演を希望される方は、下記連絡先まで電子メールで簡単な要旨（テキスト数行程度以上）をお送りください。1講演あたりの講演時間は20分程度を予定しています。また、発表された方には、研究会後に当会のホームページに掲載する要旨（A4、4ページ程度）を作成していただきます。

なお、講演のプログラムは2015年11月13日（金）までに当会のホームページに掲載する予定です（<http://www.metsoc.jp/about/research-groups/longforc>）。

記

日時：2015年12月2日（水）14時00分～17時30分

場所：気象庁3号庁舎2階3023会議室

テーマ：多様な ENSO と多様な影響

～エルニーニョ現象の日本の天候への影響と予測可能性～

連絡先：平井雅之、萱場互起、後藤敦史（気象庁気候情報課）

extreme@met.kishou.go.jp